

新聞發表(綜合)第三号

七月七日
陸軍省新聞班

廬山會議の概要

上海事件一段落を告ぐるや蔣介石は各地共產匪軍の徹底的討伐を期し上海方面に集中ありし諸軍の大部を逐次武漢、安徽、江西及福建に移駐して各々當該方面の剿匪に向はしめ自ら五月二十日國民政府令を以て豫鄂院三省剿匪總司令となり李濟環と同副司令に任命し六月八日南京発軍艦永綏にて漢口に向へり

64

翌九日蔣介石九江に到着して直に廬山に入り何應欽熊式毅夏斗寅何成濬錢大鈞徐源泉何建陳誠曹浩森及方本仁等主要將領を召集して十二日より三省剿匪會議を開催し剿匪に關する今後の方針及計畫を協議せり一方顧維鈞は國際聯盟調査委員一行と共に北平に歸來し次で南京に來りて東北陪查の經過を報告したる後十四日汪精衛羅文幹黃紹雄

李濟、張群、朱家麒、顧孟餘、陳公博、蔣作賓等と會し日本の滿洲國承認問題及其対策並蘇支復交問題を凝議したるもの、如く其結果蔣介石と會見の上議決すること、なり同日顧維鈞、汪精衛、羅文幹等飛行機にて廬山に到り既に實施中なりし剿匪會議は擴大せられ、て茲に廬山會議の開催を見るに至れり
本會議は十四日夜及十五日朝の二回に且り外交財政剿匪に關する一切の重要問題を商議し又東北失地恢復問題に關する意見の交換を行ふたるもの、如く内容詳かなりざるも諸情報とを綜合するに大体左の如き決定を見たるものと觀測せらる

一 對日問題

一面交渉を繼續しつつ他面從來の通り抵抗を持續し且つ東三省に於ける失地恢復の爲めには急速なる手段を採用す
之れが爲義勇軍を以てする滿洲國建設の

妨害を更に積極的に継続す旁ら国際聯盟
を通じて日本を牽制すると共に為し得れば
直接交渉に依り兩國の面目を立て東三省を
特種地區として日本の權益を認め之を解決
す義勇軍は中央より援助す

二 蘇支復交問題

親米政策繼續の必要を考慮し共產主義の
宣傳を除外し専ら兩國の國防及經濟關係
に重点を置き提携するに決定す
尚蘇支復交に就きては米國側の諒解を求む
るを先決條件となす

三 阿片公賣問題

阿片公賣は中央に於ても其の實行の弊害を
熟知しあるか敗源枯渴せる今日非常時に於
ける暫定的辦法として決行する外他に敗源
救済の方法無きを以て各方面の反對を排除
して成るべく速かに實行に着手す

四 對廣東問題

共匪の勢猖獗を極むる今日廣東に對し直
に武力を行使することは事實不可能なるを
以て先づ妥協の方針を以て進み共匪の肅清
成るを俟て武力を行使す

五 剿共問題

剿共匪は刻下の急務なるを以て成し得る限
り多くの兵力を集中し第一期は湖北安徽
を第二期は湖南江西福建を肅清す